



富士五湖紀行 / 河口湖 西湖編

2001年10月7日掲載

秋の観光シーズン到来！　そこで、今回は日帰りで富士五湖を回ってみた。

東京から富士五湖への自動車でのルートは、大きく分けて2つ。中央道河口湖IC経由のルートと、東名高速御殿場IC経由のルートである。今回は、中央道経由にした。

朝9時、連休の最終日ということもあり、中央道下りは順調。最初は小さく見えた富士山も、大月JCTをすぎたあたりから大きく見え始める。

雲1つない青空で、「快晴」とはまさにこのこと。前日に初積雪を観測した富士山頂も、はっきりと見ることができる。

前方には観覧車やジェットコースターが見えてくると、もう河口湖IC。河口湖を目指し、河口湖大橋を渡る。

富士五湖を観光するのは、中学の移動教室以来約15年ぶり。河口湖の北岸に移動教室があったことだけは記憶しているが、それ以外は覚えていない。

ただ、そのときに見た朝焼けの富士山がきれいだったことだけは覚えている。起床の放送で「富士山がきれいです！」なんて言われたら、そりゃ起きるって。

そんなことを思い出していたら、河口湖の北岸を通る道路に曲がりそびれた。1kmくらい走って引き返し、無事河口湖の北岸を通る道路へ。

しばらく走ると、湖岸にコスモスが！　そして富士山もバッチリ。

今回、デジカメではなく一眼レフを持参した。こんなすばらしい景色は、デジカメよりも銀塩写真の方がいいに決まっている！

早速、撮影してみる。



ここをあとにし、西湖へ　と、「西湖」を出そうとしたら、何と変換できない！　ちょっと、どういうこと？

河口湖から西湖に通じる道は、走っていて非常に気持ちいい。窓を全開にして進む。

トンネルを抜けると、眼前に西湖が。「西湖、サイコー！」というオヤジギャグも飛ばしながら、湖岸に降り立つ。

すると、頭上に鳶の姿。もちろん、鳥の方。決して「鳶職」ではないので、お間違えなく。

鳶は、湖の上から急降下し、魚を捕った。鳶って、水の中の魚が見えるのね。

次を目指すは、精進湖。「精進湖」も、変換できず。徳島の会社、何してる！

続きは[こちら](#)へ。

[\[トップページ\]](#)



富士五湖紀行 / 精進湖 本栖湖編

2001年10月14日掲載

今月は「富士五湖紀行」と題し、日帰りの富士五湖をお送りしている。前回の「河口湖 西湖編」は[こちら](#)からどうぞ。

精進湖に到着。富士五湖の中では、最も小さい湖である。

持参した一眼レフで、富士山をバックに湖面を撮影。ふと足下に目をやると、そこにはかわいい花があるではないか。



薄紫の小さな花で、スズランのようにも見える。図鑑がないので、残念ながら名前は不明。名前をおわかりの方は、ふくちゃんまでご一報を！

続いては、本栖湖へ。5000円札の裏に描かれている富士山は、本栖湖からの眺めなのだ!!

5000円札に描かれた風景が見える場所には、しっかりと看板も立てられている。そこで、記念撮影をする観光客も多い。

中には、5000円札を手に写真に写っている人もいる。でも、冷静に考えると、写真で5000円札の絵は小さくて見えなくなるはずだが

私も、写真を撮ってみた。お手元に5000円札があるなら、ぜひ比較をしてほしい。稜線が見事に一致しているのがおわかりいただけるだろう。



富士五湖最西端の本栖湖をあとに、今度は最東端の山中湖に向かう。この2つの湖、距離にして約30km離れている。

途中には、観光スポットがいっぱい。その中でも、まずは鳴沢氷穴に寄ることにした。

この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



富士五湖紀行 / 富士山麓編

2001年10月21日掲載

10月は「富士五湖紀行」お送りしており、今回はその3回目。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)をご覧ください。

本栖湖から山中湖に向かう途中、観光スポットがあちこちにある。その中でも、まずは鳴沢氷穴に寄ることにした。

鳴沢氷穴は、富士山の噴火でできた溶岩の洞窟。付近には、ほかにもコウモリ穴をはじめとして、いくつもの風穴が点在している。

鳴沢氷穴の内部は夏でも氷点下で、あちこちで氷が見られる。江戸時代には、この氷が江戸幕府に献上されたという。

洞窟のため、当然足場は悪い。それなのに、着物姿のおばちゃんの中へ。

しかし、やはり途中で引き返してきた。入口で入場を止めなかったのが不思議だ。

今度は、その近くにある紅葉台へ。途中はとんでもない山道で、車で登るにも降りるにも超低速で進まなければならない。もちろん、すれ違いもやつのこと。

ただ、紅葉台からの景色は絶景そのもの！苦勞して登ってきた甲斐があった。

山を降りる途中、紅葉を発見。まだ色づいてはいなかったが、これが「紅葉台」の由来かと悟った。

再び車を東へ走らせる。昼を過ぎたので、さすがに腹が減ってきた。

山梨といえば「ほうとう」。麺類好きのふくちゃんにとって、もはや選択の余地なし！ほうとう屋に入る。

アツアツのほうとうに舌鼓。まさに至福のときである。

さらに東へ。名水百選にも選ばれた、忍野八海に向かう。

池のほとりに土産物屋があるだけなのに、結構人でごった返していた。それもそのはず、この池こそが「忍野八海」なのだ。



水はとても澄んでいて、それに冷たい。さらに、その水を飲んでみる

とおいしいのだ。

写真を見てもらうとわかるが、水面が反射して池の反対にいる人の顔が映っている。決して心霊写真ではないので、怖がらないように！

また、池の中の魚がデカイ。ニジマスがサケぐらいの大きさなのだ。まあ、ニジマスはサケ科の魚だから似てるしね。

さらに、ここには水車小屋がある。実際に粉をひいて、まんじゅうの原料にしているらしい。

いよいよ、富士五湖制覇のラストを飾る山中湖へ。でも、[こちら](#)につづく！

[\[トップページ\]](#)



富士五湖紀行 / 山中湖編

2001年10月28日掲載

今月お送りしてきた「富士五湖紀行」も、いよいよ最終回。1回目、2回目、3回目は、それぞれをご覧ください。

これまで河口湖、西湖、精進湖、本栖湖と回ってきた。そして、いよいよ富士五湖制覇も最後の山中湖に向かう。

山中湖に到着し、湖岸を時計回りに進む。ここで、あるものを見つけた。

それは、数字の書かれた看板。しかも、ほぼ交差点ごとに立っている。ただ立っているわけではなく、道を進むごとにカウントダウンしていく。

どうも、これは別荘や保養所の案内に使われるらしい。たぶん、観光案内所で道を尋ねるとき、「25番の道を曲がって」という案内をするのだろう。ま、あくまで推測だが、ほぼ間違いのないと思う。

そうこうしているうちに、山中湖バスターミナルに到着。ここでおみやげを買うために、車を降りる。もちろん、山中湖を見るためでもある。

まずは湖へ。ボート乗り場の前に、変なものを発見！

25年以上前のアニメキャラの乗り物が、放置されているのだ。しかも、ご丁寧にそのキャラの首にタオルが巻かれている。

そのキャラとは、少年と犬の交流を描いた悲劇の主人公と、ロボットの世界から人間界に留学してきた真っ赤なロボット。まあ、ロボットの方は実写だったけど。

一方、富士山に目をやると、ちょうど日没。これを写真に納めずにはいられなかった。



うーん、いい感じ！この日はたくさん富士山を撮った。

土産物屋でおみやげを調達し、山中湖をあとにする。さよなら、富士五湖。

帰りは籠坂峠、御殿場、足柄峠を經由し、横浜へ。ここでチャーシューまんを食べて帰宅した。

[\[トップページ\]](#)